社　会　活　動

業績集　地域貢献諸活動

氏名：池田 礼美
実施年月：20130600
内容：あおもり思春期研究会　総会・市民公開講座

氏名：岩井 邦久
実施年月：20130500
内容：アピオ酢販売
第 6 回大学は美味しい!!フェア, 2013/5/29～6/4, 東京都.

氏名：岩井 邦久
実施年月：20130700
内容：発明・特許について　-青森県立保健大学の知的財産活動-. 平成 25 年度第 1 回知的財産導入教育, 2013/7/30, 青森県立保健大学.

氏名：岩井 邦久
実施年月：20130700
内容：平成 25 年度第 1 回知的財産権セミナー,青森県立保健大学.

氏名：岩井 邦久
実施年月：20131000
内容：平成 25 年度第 2 回知財教育・研修. IPDL を用いた先行技術検索. 企画運営,青森県立保健大学.

氏名：岩井 邦久
実施年月：20140200
内容：第 9 回こだわり食品フェア 2014 出展

氏名：岩部 万衣子
実施年月：20131000
内容：〈事業名〉サークル K サンクス商品共同開発
〈役割〉商品開発助言
〈主催〉サークル K サンクス（青森）・青森県立保健大学

氏名：瓜田 学
実施年月：20130800
内容：ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊参加

氏名：瓜田 学
実施年月：20130900
内容:みんなでスポーツ・アップリートフェスタ　出展

氏名：オガサワラ メリッサ
実施年月：20131100
内容：青森県内のボランティア通訳者を対象に、青森県で初の医療通訳養成研修を企画し、実施した。医療通訳に必要な「Ⅰ知識、Ⅱ技術、Ⅲ倫理」の基本的概念を理解してもらうことを目的とし、青森県の医療通訳現場で通釈者が活躍できるよう支援するものである。

氏名：織井 優貴子
実施年月：20131000
内容:(社)　日本看護学校協議会　東北ブロック研修　郡山　講師

氏名：織井 優貴子
実施年月：20131000
内容：秋田大学主催　第 2 回全国シンポジウム　日本の国情・第 2 次医療圏の実情に合った医師・医療者育成教育の展開を考える　2013

氏名：加賀谷 真紀
実施年月：20130600
内容：社会福祉主事資格認定講習会講師　介護福祉論・分担・３時間（青森県立保健大学）

氏名：カヴァナ・バリー
実施年月：20130800
内容：ボランティア

氏名：川内 規会
実施年月：20131100
内容：青森県内のボランティア通訳者を対象に、青森県で初の医療通訳養成研修を企画し、実施した。医療通訳に必要な「Ⅰ知識、Ⅱ技術、Ⅲ倫理」の基本的概念を理解してもらうことを目的とし、青森県の医療通訳現場で通訳者が活躍できるよう支援するものである。

氏名：熊谷 貴子
実施年月：20130600
内容：リレーフォーライフ in 八戸　（地域連携推進活動　保健大学ブース担当）

氏名：熊谷 貴子
実施年月：20130900
内容:「子どもを守る､パパとママの栄養学」連載 編集・執筆　（青森県タウン情報雑誌　ふぃ～らあ倶楽部　2013 年 9 月～現在）

氏名：熊谷 貴子
実施年月：20130900
内容：健康あおもり 21　ステップアップ県民大会（地域連携推進活動　保健大学ブース担当）

氏名：熊谷 貴子
実施年月：20131000
内容：産学官連携事業　サークル K サンクスコラボ弁当　（2013 年 10 月～2014 年 3 月）

氏名：熊谷 貴子
実施年月：20131000
内容：河北新聞　平均寿命サミット

氏名：熊谷 貴子
実施年月：20131100
内容：読売新聞　医療ルネサンス

氏名：熊谷 貴子
実施年月：20140200
内容：被災地支援　野田村ボランティア　（地域連携推進活動　健康チェック，栄養アドバイス）

氏名：小池 祥太郎
実施年月：20130800
内容：利用者の看護

氏名：小池 祥太郎
実施年月：20130900
内容：介護技術演習講師

氏名：坂下 智恵
実施年月：20130900
内容：平成 25 年度社会福士主事資格認定講習会精神障害者保健福祉論　講師

氏名：坂下 智恵
実施年月：20130900
内容：平成 25 年度八戸保健所管内自殺対策ネットワーク会議　講師

氏名：坂下 智恵
実施年月：20130900
内容：日本精神保健福祉士協会
生涯研修制度　基幹研修Ⅰ講師

氏名：吹田 夕起子
実施年月：20130700
内容：＜事業名＞日本認知症ケア学会東北地域部会事例検討会
＜役割＞ファシリテーター
＜主催＞日本認知症ケア学会東北地域部会
＜開催場所＞弘前市土手町コミュニティパーク
＜対象＞認知症ケア専門士、日本認知症ケア学会会員

氏名：吹田 夕起子
実施年月：20130800
内容：＜事業名＞地域包括ケアを担う医療従事者を対象とした感染症対策の研修会
＜役割＞事業企画・運営
＜主催＞科学研究費助成事業（挑戦的萌芽研究）「訪問看護事業所とかかりつけ医の連携における感染予防上の課題と対策」（研究代表：福井幸子）
＜開催場所＞青森県立保健大学
＜対象＞医療福祉従事者

氏名：吹田 夕起子
実施年月：20130900
内容：＜事業名＞2013 年世界アルツハイマーデー街頭活動（チラシ配布）
＜役割＞ボランティア
＜主催＞認知症の人と家族の会青森県支部
＜場所＞イトーヨーカドー青森店
＜対象＞一般市民

氏名：吹田 夕起子
実施年月：20131100
内容：＜事業名＞第 15 回アルツハイマーフォーラムＩＮ青森
＜役割＞パネルディスカッションのコメンテーター
＜主催＞アルツハイマーフォーラムＩＮ青森・エーザイ株式会社
＜開催場所＞リンクステーションホール青森
＜対象＞保健医療福祉従事者

氏名：千葉 多佳子
実施年月：20130400
内容：國際化に資する教育活動で、異文化理解ーベトナムを理解する。

氏名：千葉 多佳子
実施年月：20130500
内容：国際化に資する教育活動で、映画鑑賞を通して、イスラム社会を理解する。

氏名：千葉 多佳子
実施年月：20130600
内容：国際化に資する教育活動で、世界の貿易構造を理解する。

氏名：千葉 多佳子
実施年月：20130700
内容：国際化に資する教育活動で、イスラム社会を理解するためにシリアを題材に学習する。

氏名：千葉 多佳子
実施年月：20130900
内容：国際化に資する教育活動で、インドの女性のおかれている現状を理解する。

氏名：千葉 多佳子
実施年月：20131000
内容：国際化に資する教育活動で、韓国の食生活を学ぶ。

氏名：千葉 多佳子
実施年月：20131100
内容：国際化に資する教育活動で、青年海外協力隊の活動についてしる。

氏名：千葉 多佳子
実施年月：20131200
内容：国際化に資する教育活動で、インドの食生活をしり、インドの文化について理解を深める。

氏名：千葉 多佳子
実施年月：20140100
内容：国際化に資する教育活動で、ガンジーの活動を学ぶ。

氏名：千葉 多佳子
実施年月：20140300
内容：国際化に資する教育活動で、海外活動の講演会。

氏名：伝法谷 明子
実施年月：20130900
内容：みんなでスポーツ・アップリートフェスタ出展

氏名：鳴井 ひろみ
実施年月：20130600
内容：がんに関する研究結果についてパネル展示

氏名：鳴井 ひろみ
実施年月：20130600
内容：第 33 回日本看護科学学会学術集会査読担当

氏名：鳴井 ひろみ
実施年月：20130900
内容：2013 年 9 月 28 日・10 月 5 日・10 月 19 日・11 月 2 日・11 月 9 日
計 5 回
＜事業名＞サポートプログラム
＜役割＞運営および助言
＜開催場所＞青森県立中央病院
＜対象＞外来がん化学療法を受けている患者

氏名：沼田 祐子
実施年月：20130800
内容：【事業名】ケア付きねぶたじょっぱり隊
【役割】学生誘導・備品管理
【主催】ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊実行委員会　青森県立保健大学地域連携・国際センター地域連携科
【開催場所】青森市
【対象】ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊参加者と家族

氏名：沼田 祐子
実施年月：20130900
内容：【役割】運営・実技指導
【主催】青森県立保健大学地域連携・国際センター
【開催場所】青森県立保健大学
【対象】青森県内の看護師、潜在看護師

氏名：乗鞍 敏夫
実施年月：20131000
内容：シンポジスト　担当『学術団体の意義』

氏名：長谷川 真理子
実施年月：20140200
内容：・研修会テーマ「リカバリーとピアサポートが拓くわたしたちの新しい支援」
・役割：理事、研修企画補助、講評
・主催：青森県精神保健福祉士協会
・開催場所：青森市福祉増進センターしあわせプラザ
・対象：精神保健福祉サービスの当事者・家族、県内の精神保健福祉士、一般市民・学生

氏名：福島 真人
実施年月：20131000
内容：＜役割＞企画者
＜主催＞青森県立保健大学
＜開催場所＞青森県立保健大学 C 棟 3 階
＜対象＞理学療法学科卒業生並びに在校生

氏名：藤田 智香子
実施年月：20130500
内容：5 月 25 日から開催する「自然治癒力を高めるプログラム」の活動準備の手伝い

氏名：増山 道康
実施年月：20130400
内容：社会福祉法人みきの会理事（現在まで）

氏名：増山 道康
実施年月：20130400
内容：NPO 法人つがるつながる「メンタルフレンド」事業サポーター（現在まで）
２０１３年公募型地域貢献事業採択

氏名：三浦 雅史
実施年月：20130400
内容：障害児学童保育事業

氏名：三浦 雅史
実施年月：20130400
内容：介護予防を目的とした住民参加型事業
施設開放（体育館等）

氏名：三浦 雅史
実施年月：20130500
内容：ボランティア

氏名：宗村 弥生
実施年月：20130800
内容：特別支援学校の教員を対象にした医療的ケア研修の講師を担当した

氏名：盛田 寛明
実施年月：20130529
内容:<事業名> リハビリテーション資源の乏しい地域における訪問指導・訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談支援活動　（横浜町保健事業）
20130529
<役割> 理学療法士による訪問指導･訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談実施・支援・指導
<主催> 横浜町
<開催場所> 横浜町内高齢者･障害者宅，保健福祉施設，および横浜町役場
<対象> 横浜町在住高齢者･障害者･家族介護者および同町保健・医療・福祉専門職

氏名：盛田 寛明
実施年月：20130709
内容:<事業名> リハビリテーション資源の乏しい地域における訪問指導・訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談支援活動 （横浜町保健事業）20130709
<役割> 理学療法士による訪問指導･訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談実施・支援・指導
<主催> 横浜町
<開催場所> 横浜町内高齢者・障害者宅，保健福祉施設，および横浜町役場
<対象> 横浜町在住高齢者・障害者・家族介護者および同町保健・医療・福祉専門職

氏名：盛田 寛明
実施年月：20130805
内容:<事業名> リハビリテーション資源の乏しい地域における訪問指導・訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談支援活動 （横浜町保健事業）20130805
<役割> 理学療法士による訪問指導･訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談実施・支援・指導
<主催> 横浜町
<開催場所> 横浜町内高齢者・障害者宅，保健福祉施設，および横浜町役場
<対象> 横浜町在住高齢者・障害者・家族介護者および同町保健・医療・福祉専門職

氏名：盛田 寛明
実施年月：20131127
内容:<事業名> リハビリテーション資源の乏しい地域における訪問指導・訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談支援活動 （横浜町保健事業）20131127
<役割> 理学療法士による訪問指導･訪問在宅リハビリテーション・健康教育相談実施・支援・指導
<主催> 横浜町
<開催場所> 横浜町内高齢者・障害者宅，保健福祉施設，および横浜町役場
<対象> 横浜町在住高齢者・障害者・家族介護者および同町保健・医療・福祉専門職

氏名：山田 真司
実施年月：20131100
内容：青森県内のボランティア通訳者を対象に、青森県で初の医療通訳養成研修を企画し、実施した。医療通訳に必要な「Ⅰ知識、Ⅱ技術、Ⅲ倫理」の基本的概念を理解してもらうことを目的とし、青森県の医療通訳現場で通訳者が活躍できるよう支援するものである。

地域連携・国際センター年報

【認定看護管理者教育課程（サードレベル）】

１．サードレベル実施概要

平成 25 年度は、サードレベルの教育課程を開講した。

1）日程：第 1 クール 平成 25 年 6 月 24 日（月）～7 月 26 日（金）
第 2 クール 平成 25 年 8 月 20 日（火）～8 月 30 日（金）
実習２日間

2）受講生：25 名（修了者 23 名）
看護部長等 9 名、副看護部長等 8 名、看護師長等 8 名

3）内容：

・カリキュラムは、「保健医療福祉政策論」、「保健医療福祉組織論」、「経営管理論」、「看護経営者論」、「統合演習」の 5 つの教科目からなり、講義と演習で構成している。時間数は規定の 180 時間のほかに、オリエンテーション、プレゼンテーション等 12 時間を加え、計 192 時間であった。

・講師は、県内外の専門分野の教育・研究・実践者が担当し、学内教員の協力も得た。

・学習方法は、成人学習者として主体的に展開することを目指し、講義、演習、プレゼンテーションにより構成した。

・演習、課題レポートのテーマは「新たな看護サービスを提供する部門の立ち上げ演習」とし、教育課程での学びと実践を統合できるよう支援した。

２．サードレベルフォローアップ研修

1）目　的：サードレベル修了生が、認定看護管理者認定審査を受験することを推進し、認定審査にむけて準備ならびに情報交換を行う。

2）内　容：認定審査受験までの備え・傾向、小論文の書き方、グループワーク

3）開催日：平成 26 年 2 月 22 日（土）

4）場　所：青森県立保健大学Ｃ棟 2 階Ｎ講義室 1

5）参加者：平成 25 年度サードレベル修了生 20 名、演習支援者 8 名　計 28 名

研修科事業報告

・平成 25 年度の研修科事業の概要

（１）第 13 回ケアマネジメント・フォーラムＩＮ青森

１．企画の背景

このフォーラムは、平成１３年１１月に青森県下北地域の関係者を本学に招き「ケアマネジメント・フォーラム IN 下北」と題して行ったことが始まりである。本学開設当初のカリキュラム作成段階で当時の介護保険制度の施行も睨み、ケアマネジメントを１つの柱とし、学科合同の「ケアマネジメント論」「同演習」を４年間の集大成として位置付けた経緯があり、僻地といわれる下北地方の専門職と共同で地域のケアマネジメントのあり方を検討し、それを教育に生かす活動を展開し、その区切りにおいてフォーラムが開催された。第２回からは全県的に呼び掛ける目的で、テーマを設定し、現在の名称を用い毎年保健医療、社会福祉、介護の参加者を得て盛会に開催している。

２．研修目的

医療機関と介護施設・在宅および地域包括支援センター等、地域ケアと行政との関わりを探る。

３．研修受講者

保健医療福祉専門職：７７名

４．開催日時および場所

平成２５年１１月２９日（金）１３：３０～１６：３０

青森県立保健大学 Ｎ講義室２

５．研修内容

「高齢者虐待の現状と課題　～　虐待のない地域をつくるために　～」

障害者虐待防止法が、昨年１０月１日から施行された。これで、児童・高齢・障害者虐待と関連法が揃ったことになる。これからその法活用に向けて、各方面で実践が積み重ねられるものと思われる。言うまでもなく、虐待に関しては起きてしまってからの対応に終始するのではなく、虐待そのものの防止をはかることが重要だと言える。そこで、今回の本フォーラムでは、高齢者の虐待の動向と防止の課題等について、地域での課題や具体的な取り組みについて取り上げ、現場の声を交えて考える機会とする。

１）基調講演： 講師：青森県立保健大学　社会福祉学科　講師　工藤　英明

２）パネルディスカッション

ア　パネリスト１　ずぐりケアプランセンター・宅老所・コンサルタント
代表　秋田谷　一

イ　パネリスト２　八戸地域虐待等困難事例ネットワーク研究会
代表　安田　真

ウ　指定討論　八戸グリーンハイツ居宅介護支援事業所
介護支援専門員　藤村　千恵子

６．研修の成果および評価

研修会終了後、アンケート調査を実施した。参加者７７名のうち、６９名（回収率９０％）から回答をいただいた（詳細はアンケート結果参照）。講演の満足度は、「満足した」２８％、「概ね満足した」４５％、パネルディスカッションの満足度は「満足した」４３％、「概ね満足した」４１％であった。今後の職務に「大いに役に立つ」４１％、「少し

は役に立つ」４９％で、研修会の評価は概ね良好であった。理由としては、「研修内容が実務に結び付いていた」、「最新の知識研究内容だった」との評価が多数を占め、充実した研修会になったと言える。

検討すべき意見として、「講演時間が短かった」、「もう少し聞きたかった」、「席がもう少し広いと良い」、「寒かった」など、時間的な問題や研修会場についての指摘が見られた。

７．反省点（次年度への改善点など）

受講者数は、前年度よりも１６名ほど少なかったものの、テーマへの関心の高さが伺える。講義内容が事例や講師の体験談を踏まえたものだったため、「とても分かりやすい」という声が多数あった。

一方で、時間的な問題の指摘があったため、時間配分や、会場の形状については、次年度に向け検討していくべきである。また、アンケート結果に基づき、受講者の要望に応えるべく、シンポジウムの内容、運営方法等を十分に考慮し、今後もより良い研修会の開催に向けて検討していく。

（２）卒業生を対象とした研修会

本年度は、各学科で企画し、実施された。事業は以下のとおりである。

＜看護学科＞
１．テーマ：「糖尿病療養支援　ここがおもしろい！」
２．日時：平成 25 年 10 月 12 日（土）14:00～15:30
３．場所：Ｃ棟２階Ｎ講義室１
４．講師：神　加江（青森県立中央病院看護師　本学 7 期生）
５．参加者：看護学科卒業生 4 名、学生 10 名、教員 3 名）

＜理学療法学科＞
１．テーマ：「脊椎脊髄疾患の理学療法」
２．日時：平成 25 年 10 月 19 日（土）10:30～12:00
３．場所：Ｃ棟Ｎ講義室２
４．講師：浅川育世（茨城県立医療大学保健医療学部理学療法学科准教授）
５．参加者：理学療法学科卒業生 16 名、学生 45 名

＜社会福祉学科＞
１．テーマ：「専門職団体の意義を考える」
２．日時：平成 25 年 9 月 21 日（土）13:30～16:00
３．場所：Ｃ棟２階Ｎ講義室１
４．講師：工藤英明（本学社会福祉学科講師）、柴田真弥（青南病院）、
後藤香織（青森おおぞら学園職員）
５．参加者：社会福祉学科卒業生、学生、教員併せて 25 名

＜栄養学科＞
１．テーマ：「専門職団体・学術団体の意義を考える」
２．日時：平成 25 年 10 月 13 日（日）14:00～17:00
３．場所：C 棟 N 講義室 1
４．講師：齋藤長徳（本学栄養学科講師）、草間かおる（本学栄養学科准教授）、乗鞍敏夫（本学栄養学科助教）、藤田有咲（味の素ニュートリション）、
田口智紀（老人保健施設さくらの）
５．参加者：栄養学科卒業生 31 名、学生 1 名、教員 10 名

（３）静脈注射学び直し研修会

１．企画の背景・目的

平成 20 年度に文部科学省の委託事業として【医療安全にかかわる看護技術「静脈注射」の学び直しプログラム】を平成 22 年度まで 3 年間実施し、その後看護職からのニーズに対応すべく研修会開催の準備に取り掛かってきた。

本研修会対象者は、現在休職している看護師から新卒看護師の看護技術のレベル向上を目的として開催した。

２．研修受講者

現役看護師５１名、潜在看護師５名

３．開催日時

講義：平成２５年９月　８日（日）　９：３０～１６：３０

演習：平成２５年９月２２日（日）　９：３０～１２：３０（午前の部）

１３：３０～１６：３０（午後の部）

４．場所

講義：Ａ棟３階　演習室Ａ６（３０５教室）

演習：母性・小児看護実習室

５．研修内容

１）静脈注射の基礎的知識　２）静脈注射の実施場面と法的責任

３）静脈の機能と構造に関する基礎的知識　４）薬剤に関する基礎知識

５）輸液管理におけるリスクと対策

６．研修の成果および評価

募集定員２０名の３倍以上の申込者となったが、日程調整のうえ全員の受講が可能となり、予定どおり開催した。アンケートの集計結果をみると、受講者の殆どが自分の目的達成に役立ったと回答しており、中でも「デモンストレーション」と「静脈注射の基礎知識」が多かった。逆にもう少し知りたかったものとして、「薬剤に関する基礎知識」や「演習」が高く、勤務１年未満の新卒看護師や潜在看護師においては、薬剤への関心の高さが伺われた。受講者全員が本研修会について、「大いに助けになった」、「助けになった」と回答していた。

講義の時間が長かったと答えた受講者が 18.2%いた。講義の内容によっては予定時間より早く終了したものもあり、更に他の講義との重複を避け、講義時間を検討する余地があると思われる。

７．反省点（次年度への改善点など）

講師は全て本学看護学科教員であったが、成人看護領域や小児看護領域だけではなく、他の領域からも協力を得る必要がある。

今回は潜在看護師の参加は少なかったが、参加者５名はいずれも青森県看護協会の案内で本研修会を知ったことから、次年度以降も協力を要請する必要がある。

（４）研修企画・実施助成事業

県内の保健医療福祉専門職を対象とした研修企画を募集し、助成を行った。採択された研修企画については事業実績報告書参照のこと。

（５）教育改善研究助成

本学の教育方法等の改善に資するための研究課題を募集し、助成を行った。採択された教育改善研究については事業実績報告書参照のこと。

（６）ブックレット作成事業

本学教員の研究成果を県民に還元することを目的として、継続的な小冊子の発行を募集し、助成を行った。採択されたブックレット作成事業については事業実績報告書参照のこと。

体表解剖学テキストの作製

岩月 宏泰[1)]，鈴木 孝夫[1)]，中村あゆみ[2)]
1）青森県立保健大学，2）東北メディカル学院

１．研究の背景

これまで，研究代表者は理学療法学生に生体観察を教授してきた。授業を円滑に進めるために，過去２回教育改善研究助成費（平成 16 年，19 年）を受けてテキストを作製してきた。これらのテキストは解剖学の初学者にとって，生体で臓器，骨，筋，脈管及び神経の走行を確認する上で有用であった。しかし，２回目に作製したテキストの残部が無くなったこと，授業で５年間使用した際に新たな図や骨格筋についての説明の加筆が必要等，課題も見つかったため改訂版を作製する必要性が生じた。

２．研究目的

本研究の目的は理学療法学科１年後期に開講される運動学演習で生体観察（体表解剖学）を学ぶ際のテキストを作製することにあった。

３．研究成果

作製したテキストは英文で 87 頁からなる。構成は，生体観察の準備，解剖・運動学用語の説明，頭頸部，胸郭・腹部及び骨盤，背部，上肢，下肢及び整形徒手検査となっている。内容は項目ごとに骨ランドマーク，骨格筋，臓器，脈管，神経の順で確認すべきものが記述されている。今回，上肢，下肢については骨格筋の筋名，起始，停止，支配神経及び触診方法について表としてまとめたので，解剖学の初学者でも骨格筋の走行をイメージ出来，合わせて触診の技術を高めさせることが期待できる。

テキストは前述のとおり説明が英文であるが，部位別に確認すべきものと解剖学，運動学用語を関連づけて学ぶことで専門英語に慣れ親しむことが出来る。この学習が３年生の理学療法演習（ゼミ）で読む英文献を理解する上で手助けするものと思われる。

４．研究成果の公表および活用

作製したテキストは当初の計画通り，理学療法学生１年生を対象とした運動学演習で使用し，生体観察を学習させる。また，理学・作業療法士を対象とした系統解剖学，徒手整形外科検査法を教授する研修会（本学で過去６年間に 12 回実施し，今年度も２回実施する予定である）で使用し，受講者に講義内容の理解を手助けするものとして有用であるか検討する。

症例報告における「統合と解釈」の能力を高める演習と教材の開発

藤田智香子[1)]、岩月宏泰[1)]
1) 青森県立保健大学理学療法学科

１．研究の背景

臨床実習で理学療法学科の学生(以下、学生)は担当した症例について、検査・測定などの結果を統合して解釈し、問題点の抽出から理学療法プログラムの立案を要求されるが、この過程で苦慮し多くの助言・指導を必要とする。そこで我々は平成 24 年度の教育改善研究助成を活用し、ICF の概念に基づく関連図の作成を通して、「統合と解釈」の臨床思考過程を高める学内演習と教材を開発した。その演習で対象とした学生は、不十分な点もあったが、おおよそ妥当な ICF 関連図の作成が可能であった。

２．研究目的

上記平成 24 年度の成果を踏まえて、平成 25 年度は症例報告の「統合と解釈」において、次段階となる問題点の抽出、治療方針・目標の設定、理学療法プログラムの立案までを教授するための学内演習と教材の開発を検討することとした。本研究の目的は、ICF の関連図をベースとした問題点の抽出、治療方針・目標の設定、理学療法プログラムの立案までを学ぶ模擬授業を実施し、症例報告における「統合と解釈」の能力を高める学内演習と教材を検討・開発することである。

３．研究成果

(1)方法

1)事前準備：研究協力者の公募、模擬症例・演習シート・模擬授業の資料・調査用紙の作成。

2)模擬授業の実施：１コマ 80 分の授業を学生９名(2 グループ)を対象に実施した。ICF と演習の説明後に脳出血左片麻痺の症例についてグループ毎に演習を実施した。各演習後に研究者が作成した記載例を提示し、フィードバックと質疑応答を行った。

3)分析:演習シートの記載結果を記載例に基づいて分析した。模擬授業後の調査結果は単純集計し、授業の理解度、演習の到達度、今後の課題について検討した。

(2)結果および考察

1)模擬授業での演習：症例の情報から ICF の分類に基づき分析・記載した内容はおおむね妥当であったが、記載領域の誤配置、不適切な表現、重複や不足の内容がいくつか見られた。治療方針、目標、理学療法プログラムの立案結果は両グループとも類似した内容で、記載方法の不適切さや具体性が不十分な点もあったが、全体的な方向性は妥当なものであった。今回は模範記載例のみ示したが、間違った例や不適切な例も挙げて説明することで、よりわかりやすく理解が深まると考えられる。

2)模擬授業後の調査：演習の内容と進め方については、おおむね肯定的な回答を得た。知識の再確認や関係性の再認識によって総合的に理解が深まり、今後役立つ実践的な内容を学習できたと考えられる。但し、『演習シートを一人で作成できる』については肯定的な回答が 33.3%と低かった。また、難しかった点として、「予後予測を踏まえた治療方針・目標・理学療法プログラムの立案」との回答が多くあった。学生は症例のイメージが乏しい上に、知識を関連づけられず整理できない傾向にあり、詳しい参考資料や映像資料等、より症例をイメージできる情報の提供が必要と考えられる。

3)今後の課題：本研究で開発した演習と教材は、おおむね「統合と解釈」の能力を高める内容であったと考えられる。ただ、今後より多くの学生を対象として演習と教材に関して再確認する必要があると考えられる。また、「統合と解釈」の能力を高めるために１コマの授業では限界があり、様々な疾患の症例の積み重ねや繰り返しのトレーニングが必要であり、多様な症例の演習ができる教材の開発が必要と考えられる。さらにグループでの演習で得られることも多いが、最終的に独力でできるように段階的に学習できる演習の展開と教材の開発が必要と考えられる。

４．研究成果の公表および活用

成果の公表:26 年度の青森県保健医療福祉研究発表会や理学療法関連学会で発表予定。

成果の活用:本学理学療法学科３年次前期に実施される臨床評価実習のオリエンテーションで授業予定。また、３年次後期にある初期総合臨床実習の事前または事後学習として実施予定。

管理栄養士養成課程等における口腔機能の効果的な教育方法に関する検討

清水　亮[1)]　吉池　信男[1)]
[1)] 青森県立保健大学　健康科学部　栄養学科

１．研究の背景

高齢者や傷病者における「食べること」の支援に関わるチームアプローチの中で、口腔機能と栄養について多職種が共通理解を深め、その上で協働を推進することが必要である。特に栄養ケア・マネジメント(ＮＣＭ)の中心となる管理栄養士には口腔機能に関する十分な意識と理解が求められる。しかしながら、管理栄養士養成課程において、高齢者等に対するＮＣＭの中での“口腔機能”に関する教育は、十分とは言い難い現状がある。

２．研究目的

我々はこれまでに、管理栄養士養成課程における口腔機能の効果的な教育方法を提案し、教育効果の検証を行ってきた。ここでは、本学の栄養学科 3 年生を対象に、口腔機能に関する先駆的な実習を行い、その教育効果を検証するとともに、これまでのデータの蓄積を図ることを目的とした。

３．研究成果

報告者が担当する『臨床栄養学実習Ⅱ（受講生 32 名）』に、歯科医師 大原里子氏(東京医科歯科大学)をゲストスピーカーとして招聘し、歯科医師や歯科衛生士など、口腔機能(唾液、嚥下、咀嚼、義歯)の維持に主として携わる職種との連携を見据えた『口腔機能』に関する実習を行った。さらに実習の特徴として、例えば咀嚼機能の実習では、まず講義を行い、続いてそれぞれ同量の軟らかく煮た一口大の人参、5mm に薄切りにした人参、5mm に角切りにした人参、5mm に角切りにして餡をかけた人参を嚥下しやすい状態になるまで咀嚼した回数や口腔内でのまとまりやすさを比較してもらうことで、体感しながら口腔機能を理解し、機能低下者に適した栄養法の学びを深めることに重点を置いた。

授業の満足度を「良い～悪い」の 5 段階で評価してもらったところ、良い 81.2%、やや良い 18.8%であった。内容については、咀嚼機能に関して最も興味深いと感じており、87.5%の学生が関心を持っていた。自由記載にも多くの感想あり、「体験できるのが分かりやすくて良かった」「きざみ食の演習が意外な結果で、学ぶことができて良かった」に類似するものが複数あった。加えて、実習前に「咀嚼機能低下者に刻み食が有効」（＝誤答）と回答していた学生は 90.6%であったのに対して、実習後には 93.8%が「有効でない」（＝正答）とした。

次いで嚥下機能で 75.0%、唾液の機能で 59.3%が興味深く感じており、特に後者は、「唾液の重要性については初めて知ったので、もっと深く知りたいと思った」等の感想があった。さらに実習前には唾液分泌量の減少による自覚症状として、「咀嚼しにくい」「味覚異常になる」「口の中が痛む」を理解していた学生はそれぞれ 62.5%、50.0%、21.9%であったのに比して、実習後には 9 割以上の学生が把握しており、有意な増加がみられた。

管理栄養士が高齢者の栄養管理を実施する上で必須の知識と考え、これまで講義をしてきた『口腔機能』に関する学生の知識は、前述のように重要な箇所であっても定着していないものがみられた。特に咀嚼機能に関しては顕著であり、本教育方法のように体感することで、実習の満足度を損なわず、確かな学びに結び付けられることが示された。本結果をこれまでの研究結果に累積し、より効果的な教育方法の開発に結び付けたいと考えた。

４．研究成果の公表および活用

本結果をこれまでの研究結果に累積し、かつ、報告者が所属する研究グループが現在多施設で行っている研究成果と統合し、日本公衆衛生学会などで発表したいと考えている。

研究課題名 自己学習支援のための学生のニーズの把握と視聴覚教材の充実

担当者名　市川美奈子[1)] 小池祥太郎[1)] 木村恵美子[1)] 藤本真記子[1)] 福井幸子[1)] 小林昭子[1)] 沼田祐子[1)]
角濱春美[1)] 入江良平[2)]
1）青森県立保健大学健康科学部看護学科　2）青森県立保健大学健康科学部社会福祉学科

１．研究の背景

看護技術習得のための補助教材として視聴覚教材は欠かせないものであり、本学でも教員が作成した看護技術のデモンストレーションビデオをVHSにして自己学習のために基礎・成人看護実習室とフィジカルイグザミネーションルーム（以下実習室）で閲覧できるようにしている。しかし、100人を超える学生がくり返し視聴するため、VHSの画質の低下や劣化が激しい。また、VHSでは見たい場面を検索したり、一時停止したりする操作は煩雑である。学生からは実習室の使用状況によっては見たい時に見ることができない、練習できないとの意見が挙がっていた。そのため、現在のVHSの視聴覚教材を電子データ化、DVD化して実習室で閲覧可能にして自己学習環境の整備を図ること、現在の学生の自己学習状況とニーズを把握することが必要であると考えた。

２．研究目的

学生の自己学習支援のための学習環境を整えることを目的とし、今年度は以下のことを実施した。
①視聴覚教材の電子データ化、活用しやすいDVD教材の作成
②DVDを閲覧するための実習室の学習環境の整備
③学生の自己学習状況及びニーズの把握

３．研究成果

基礎看護学領域の担当科目で使用している視聴覚教材 61 本をすべて電子データ化した。看護学科 1 年後期必修科目「実践基礎看護技術Ⅱ」に関連する視聴覚教材の内容を見直し、今年度新たに 3 種類の技術についてビデオ撮影し、合計 9 種類の技術について DVD 化した。DVD 化するにあたり、授業で活用しているチェックリストと対応するようにチャプターをつけた。各実習室にそれらの DVD を配置して自由に閲覧できるようにし、自己学習の方法を説明した。「実践基礎看護技術Ⅱ」の授業では、DVD 化した視聴覚教材を用いて事前学習やデモンストレーションの説明に活用した。その結果、実技試験では、DVD 作成時に教員が意図した技術ができるようになったとして教員間での評価が得られた。

看護学科 1 年生を対象に、自己学習状況及びニーズについてアンケート調査を DVD 導入前後に実施した。その結果、100 名から回答が得られ、DVD の活用が「予習に役立った」「まあ役立った」と答えたのは 94 名（94%）、「復習に役立った」「まあ役立った」97 名（97%）、「実技試験に役立った」「まあ役立った」97 名（97%）、「DVD は総じて分かりやすい」「まあ分かりやすい」94 名（94%）であり、今回作成した DVD の視聴覚教材は学生の自己学習に効果的であったと考える。自由記載では、DVD になって画像が見やすくなった、操作が簡単になった等好評を得た。また、看護師が患者に説明する場面に音声や字幕による解説が欲しい、失敗例や悪い例も入れて欲しい等の要望も把握できた。

４．研究成果の公表および活用

今回の結果は、看護教育や看護技術に関連する学会へ発表予定である。今後の活用として、得られた学生からの要望を参考に、更なる視聴覚教材の充実を図っていく。また、視聴覚教材だけでなく、学生の学習活動状況や態度も視野に入れて、学生の自己学習支援へ活用していく。

がん患者とその家族への家族看護セミナー

中村由美子[1)]，成田富美子[2)]，山本尚人[3)]，宗村弥生[1)]，
田中栄利子[1)]，伊藤耕嗣[1)]
1）青森県立保健大学，2）青森県立中央病院，3）千葉県立がんセンター

１．企画の背景

近年のがん罹患率の高さと患者の長期生存により、がん患者の家族の絶対数が増え、闘病機関の長期化の中で患者とともに多くの課題に向き合い、意志決定し対処していかなければならない家族の姿が浮き彫りになっている。このような状況下において、看護職者はがん患者の身体的・精神的な苦痛を理解し、患者やその家族に対してＱＯＬの視点に立った質の高い看護を提供することが求められている。

1999 年から本学が中心となり、「青森県家族支援研修会」や「家族看護学研修会」等を開催し、家族支援のための専門知識や技術習得を目指してきた。今回、青森県における看護の質の更なる向上を目指し、がん患者とその家族を対象とした家族看護の実践力を身につける為の研修が必要であると考え、本研修を企画した。

２．研修目的

青森県における看護職者（看護師・助産師・保健師）の臨床や地域における家族看護実践能力を高めることを目的とする。

３．研修受講者

職種：看護師・助産師・保健師　　受講者数：44 人（のべ参加者数 15 人）

４．開催日時および場所

① 平成 25 年 7 月 20 日（土）10：00～15：00 青森県立保健大学（教育研究 A 棟 A107）
② 平成 25 年 9 月 7 日（土）10：00～15：00 青森県立保健大学（教育研究 A 棟 A107）
③ 平成 25 年 10 月 5 日（土）10：00～15：00 青森県立保健大学（教育研究 C 棟 N 講義室 2）

５．研修内容

1）グループワークで学ぶ家族アセスメント（講義 中村由美子・グループワーク）
家族看護（カルガリー家族アセスメント/介入モデル、家系図・エコマップ、苦悩と病い）について講義を行い、“苦悩する家族”についてグループワークおよび“苦悩する場面”のロールプレイを実施した。

2）事例を用いた家族看護の実践（講義　中村由美子、成田富美子・グループワーク）
“拘束的ビリーフ”および“家族インタビュー”について講義を行い、入院場面のアナムネーゼ聴取場面を通して、患者・家族インタビューの実践をした。

3）乳がん患者の家族サポート（講義　中村由美子、成田富美子、山本尚人）
“乳がん患者とその家族”をモデルとしたカルガリー家族アセスメント/介入モデルの実際を実践した。また、千葉県立がんセンター山本先生より“最新の乳がん治療”と患者・家族・医療者との関係について講義を行った。

６．研修の成果および評価

研修後のアンケート結果では、受講生の研修に対する満足度は 10 段階評価で 9 点と高く、「このようなセミナーがあれば、是非、参加したい」「これからも開催してほしい」という要望が受講生から寄せられた。また、受講生の多くは「患者や家族との関わりを深めたい」「がん患者とその家族に対する看護を学びたい」など学習意欲は高いが、「家族への介入を頭では分かっていてもなかなか上手くできない」「患者と家族への家族看護をどうやったらよいか、悩むことが多い」など、臨床現場の看護師が家族看護の実践に困難を感じている現状も見られた。患者・家族との対応スキルの向上は、家族看護学の知識の学習と共にロールプレイなどの実践のトレーニングが大切である。グループワークやロールプレイを用いた演習を重視した研修プログラムは、受講生スキルの獲得につながっていく為、今後も家族看護に関する研修会の開催を継続していきたいと考える。

高校生も分かる障がい者の特性と障がい者への社会福祉援助

増山　道康[1)]
1）公立大学法人青森県立保健大学健康科学部社会福祉学科

1．要旨

このブックレットは、青森県立高等学校総合科目中「社会福祉」に関する授業の理解を助けるための副読本として作成した。障がい者の分類を法制度別に概観し、障がい者総合支援事業を中心とした支援のための制度を解説している。巻末では、障がい児教育と触法障がい者の現状と課題にも触れている。高校生が読むことを前提に分かりやすい解説を行っている。

2．冊子の体裁

総頁 32 ページ。アート紙 A4 版
モノクロ、表紙のみ 2 色印刷

3．活用方法

青森県総合学校教育センター産業教育担当指導主事及び総合科目「社会福祉」担当教諭に配付し、授業指導案作成及び授業改善のための資料とする。

オープンキャンパス時に社会福祉学科模擬授業に参加した高校生に配付し、社会福祉の中で障がい者分野への興味関心を喚起する。また、高大連携授業で社会福祉基礎論を選択した青森県立青森東高等学校の生徒に配布し、自宅学習の一助とする。

県立高等学校全校	65 部
青森県総合学校教育センター指導主事	10 部
青森県立青森東高等学校生徒	3 部
オープンキャンパス参加生徒	150 部

平成 25 年度韓国仁濟(インジェ)大学校との日韓国際交流報告

１．仁濟大学校物理治療学科から本学へ

（１）来学者：物理治療科３年生４名

金 仁廣（キン　インカン）男性　　李 聖宰（イ　ソンジェ）男性

崔 在洪（チェ　ジェホン）男性　　姜 秀珍（カン　スジン）女性

＊引率教員：7/9(火)～7/11（木）　安 德賢（アン　トクヒョン）男性

（２）研修概要

期間：平成 25 年 7 月 9 日(火)～8 月 10 日(土)の約 4 週間

日程：7/9(火)～7/23(火) オリエンテーション、病院・施設見学および学内で授業参加

7/24(水)～7/31(水)　弘前脳卒中・リハビリテーションセンターで研修

8/1(木)・8/2(金) 学内研修　　8/5(月) 修了式　　8/10(土) 帰国

宿泊：本学ドミトリー

（３）昨年度の課題について

1)通訳の質・量の確保：オリエンテーション(通訳内容の概要説明と服装・マナーの注意等)と専門用語集の事前配布を実施した。通訳者および研修施設側で好評だった。今年度弘前の研修施設の通訳は弘大の留学生で、青森市内の病院見学や学内授業等の通訳は、NPO 法人あおもりコリアネットのメンバーにお願いでき、非常に助かった。次年度以降もお願いできそうである。

2)弘前脳卒中・リハビリテーションセンターでの研修計画：7/24(水)～31(水)の６日間で 8～15 時で朝の申し送りから参加した。昨年より 1 日あたりの時間は増えたが、日数的には少なく、研修施設の負担も軽減され、おおむね好評であった。

3)ドミトリーでの生活：調理器具とシャワーのタイムテーブルに関する説明，キッチン・トイレ・ランドリーなどに関する使用上の注意の掲示等(英語または韓国語)を総務課に要望。数回ブレーカーが落ちた(電磁調理器と電子レンジの同時使用？）以外大きなトラブルはなく生活できていた。

4)インジェ大学校学生の病気・怪我等時の治療：受診等なく無事終了できた。(海外旅行保険には加入済)

（４）次年度への課題

1)事務処理等の負担軽減：書類作成(旅費や謝金申請等)や通訳者との打ち合わせおよび当日の案内・説明等にかなり時間をとられた。本学教員や学生は講義期間中で時間的に厳しく、負担軽減のため事務や対応を補助してくれる人を検討する必要があると考えられた。

2)青森市内での研修先の拡大

２．本学理学療法学科から仁濟大学校へ

（１）訪韓学生：理学療法学科３年生２名　永山　香織　　田中　香穂里

＊引率教員：往路 8/29(木)～9/3(火)　藤田准教授　　復路 9/10(火)～9/14(土) 李講師

（２）研修概要

期間：平成 25 年 8/29(木)～9/14(土)

日程：8/29(木)　青森→ソウル→釜山　　8/30(金)　オリエンテーション、附属病院見学・挨拶回り

8/31(土)　インジェ大学校見学等　　9/2(月) ～9/4(水)　附属白(パク)病院での研修

9/5(木)～9/10(火)　インジェ大学校で授業参加＆学生と交流

9/11(水)　釜山→ソウルへ移動　　9/12(金)　ソウル市内で身障者センター見学等

9/14(土)　ソウル→青森へ

宿泊：8/29(木)～9/10(火)：仁濟大学校ドミトリー

9/11(水)～9/14(土)：ソウル市内ホテル

（３）昨年度の課題について

・昨年度は往路でソウルに宿泊し、次の日釜山へ移動したが、今年度はソウルから釜山の国内線乗継ぎのタイムテーブルがよく、初日に釜山まで移動し、定刻の 20：30 頃到着できた。

(担当者：理学療法学科　藤田智香子)

講演会

1. 第1回国際科委員会主催講演会

【講師】サミュエルメリット大学看護学部　教授　パメラ・ミナリク氏

【テーマ】「Models & phases of consultation」

【日時】　平成25年6月24日(月)　15：40～17：10

【場所】　A棟A110教室

【内容】アメリカにおけるリエゾンナースの経験から、他職種連携等の内容を踏まえたコンサルテーションについて

2. 第2回国際科委員会主催講演会

【講師】仁濟（インジェ）大学校医生命工学大学物理治療科　教授　安　徳賢　氏

【テーマ】「Development of Air-cell Based Self monitoring Lumber Exercise Cushion」

【日時】平成25年7月10日(木)　17：10～18：30

【場所】B棟B110教室

【内容】安教授のグループが開発した座ったままエクササイズが行え、且つその状態がモニタリングできるエアセルクッションについて

3. 第3回国際科委員会主催講演会（JICA東北共催）

【講師】小笠原　直子　氏（ＪＩＣＡボランティア　管理栄養士）

【テーマ】「JICAボランティアとシリアについて」

【日時】平成２５年１０月１２日（土）１４：００～１５：００

【場所】Ｂ棟Ｂ１０９教室

【内容】JICAボランティア全般に関する説明と、講師が赴任したシリアに関することについて内戦前と内戦中の現状を踏まえて説明頂いた。

【講師】村木　裕俊　氏（ＪＩＣＡボランティア　農業技術指導）

【テーマ】「シリアで今何が起こっているのか」

【日時】平成２５年１０月１２日（土）１４：００～１５：００

【場所】Ｂ棟Ｂ１０９教室

【内容】シリアで現在起きている内戦のことについて、ニュースからでは知り得ない情報も加えて頂きながら詳しく説明頂いた。

１．国際交流報告会

【報告者】田中香穂里さん、永山香織さん（理学療法学科３年）

【日時】平成２５年１２月１８日（水）１５：４０～１６：３０

【場所】Ｂ棟Ｂ１１０教室

【内容】８月から９月にかけて２週間訪韓し、インジェ大学校にて研修を行ってきた内容についての報告があった。

（担当：長門五城）

国際協力市民公開講座

１．写真展

日時：平成２５年１０月１２日（土）、１３日（日）１０：００～１６：００

場所：Ｂ棟Ｂ１０９教室

内容：内戦前のシリアについて、生活・文化を中心に紹介。

展示物：写真 50 枚、シリア及び中東の民芸品、JICA プロジェクト資料、JICA 広報資料

来場人数：2 日間合計で 350 名以上（アンケート回収は 153 人　男性 61 人　女性 88 人　無回答 4 人）

２．講演会

日時：平成２５年１０月１２日（土）１４：００～１５：００

場所：Ｂ棟Ｂ１０９

講師：小笠原　直子　さん（ＪＩＣＡボランティア　管理栄養士）

　　村木　裕俊　さん（ＪＩＣＡボランティア　農業技術指導）

演題：『JICA ボランティアとシリアについて』・・・小笠原さん

　　『シリアで今何が起こっているのか』　・・・村木さん

参加者：2 日間合計 43 名

≪意見等≫

・シリアに早く平和が訪れてほしい（2 名）
・私達と生活が違いすぎて驚いた
・興味をもっている学生は他にもいる為学祭以外でも開催してほしい（2 名）
・定期的に開催してほしい（イスラム教について知りたい）
・写真を通してシリア人の精神性の高さが伺えた
・スタッフからシリアについて話を聞くことができ、より理解できた（5 名）
・内戦以外のシリアについて知ることができて良かった
・順路の表示があると良いのではないか
・こども達の笑顔や一生懸命な姿が印象的だった（2 名）
・初めて見たため興味深かった
・行く機会の少ない国の情報を知ることができて良かった（4 名）
・来年も開催してほしい
・中東の食事提供があっても良かった
・シリアを身近に感じられた
・乗合タクシーの表示が面白かった
・実際に行ってみたいと思った
・ボランティアに興味をもった（2 名）
・普段の生活が当たり前ではなく、日々に感謝しようと思えた
・もっとこのような国があることを知るべきだと思った
・貧しい中でも楽しく暮らしている姿が印象的だった
・写真の展示数を増やしてほしい
・大人と子供の関係が豊かなのがわかった
・勉強になった
・シリア問題の解決は難しいのではないか
・「世界遺産」の展示が良かった
・短時間 DVD 上映があると良いのではないか
・バビロン神話について知りたい
・日本が平和だと気づかされた

※写真展と講演会の入場者でアンケート回答者にクリアファイルを提供した。（大学グッズ）

（担当者：長門五城）